



スタッフステーション

無菌室への廊下

血液病センターでは、患者様と診療スタッフとのコミュニケーションだけではなく、患者様同士の情報交換を重要視しております。化学療法や移植を受けた方にしか理解できない、治療による苦悩やその解決策などの貴重な体験談を「励ましの言葉」として次に同じような治療を受けられる患者様へお送りしています。詳細はホームページをご覧ください。  
<http://www.phhospital.or.jp>から血液内科をクリックしてください。

1. 末梢血幹細胞移植患者からの  
 『明日、移植を受けられるあなたへ』  
 闘病手記

【血液病センター独自の取り組み】

長期入院や特殊な治療により、患者様には多くの不安やストレスが生じます。当センターは、患者様お一人お一人との距離を縮める努力として患者様の心のケアを含めた苦痛除去に重点を置き、他施設にはない様々な取り組みを行っております。その一部をご紹介します。

血液病センター長  
 部長 松田 光弘(血液専門医・指導医)  
 医員 江口 剛  
 山入 望美  
 嘱託 岩永 隆行(血液専門医・指導医)  
 非常勤 芹澤 憲太郎  
 江本 正克

【血液内科スタッフ紹介】



特集

血液病センター

血液病センター長 松田 光弘  
 血液内科部長

このたび、PL病院では、血液疾患の診療をより一層充実させるため、6階西病棟を「血液病センター」として新設しました。そこで、血液内科の診療内容と血液病センターについて解説いたします。

【血液病とは】

血液病(血液疾患)は、造血器疾患とも呼ばれ、われわれの体を流れる血液細胞(血球)や凝固系(血液を固める機能)、あるいは免疫装置であるリンパ組織に異常をきたす病気の総称です。その中には、急性白血病などの血液がんや、造血不全(血液の造りが悪い状態)、さらに特発性血小板減少性紫斑病などの全身に出血をきたしやすい疾患などが含まれます。血液疾患を対象に、専門的な診断や治療を行う診療科を血液内科と言います。

【血液内科の診療内容】

当院は、日本血液学会認定血液研修施設(血液専門病院)ならびに日本がん治療認定医機構認定研修施設です。血液検査室には専属技師が待機し、外来部門は外来治療室(7床)を、また血液内科病棟は無菌室を有し、これまでに再生不良性貧血を含めた各種貧血、急性白血病、慢性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、出血性疾患、特発性血小板減少性紫斑病、血友病など、骨髄増殖性疾患などのあらゆる血液疾患に対して、診断から化学療法や特殊血輸血まで幅広い治療を行ってまいりました。最近では、分子標的療法や造血幹細胞移植療法を含めた治療技術の進歩がめざましく、かつて不治の病と言われた白血病や悪性リンパ腫でも治るタイプも出てきました。

2. 病棟看護師の教育と多職種スタッフによる  
 合同カンファレンス

血液病センターでは、エキスパートナースを育成するために、毎月定期的に少人数制での勉強会を開催し、看護師教育を徹底しております。また、医師と病棟看護師だけでなく、薬剤師、外来看護師および地域医療連携室のソーシャルワーカーによる合同カンファレンスを定期的に開催しております。これにより、臨床情報の共有化を図り、治療方針の周知徹底、問題点の早期解決および円滑な退院支援などに努め、質の高いチーム医療を目指しています。

3. 無菌室でのミニコンサート

無菌室での治療が長引く患者様に、職員によるミニコンサートを定期的に開催しています。

4. リハビリテーション

血液病センターでは、日常生活動作向上や筋力維持目的で、年齢や入院時の活動性を問わず、すべての患者様にリハビリテーションを行っております。化学療法中の無菌室でのストレッチなどは、リラクゼーション効果も期待できます。

【お知らせ】

随時ホームページがリニューアルされておりますので、ご覧ください。



個室無菌治療室

総室無菌治療室

当院でも、平成21年からこれまで二十数例の末梢血幹細胞移植療法を行ってまいりました。

【血液病センターの新設の意義】

血液内科の診療には、専門的な知識を持つ医療チームと無菌室などの先進的な設備が必要です。しかし、現在、全国で血液専門病院は488施設しかなく、血液専門医も2800名程しかいない状況です。これらの病院や医師は大都心に集中しており、さらに血液内科を有する病院が次第に減り始め、南大阪地区では、当院を含めわずかに数施設のみとなっております。そのため、当院へは南大阪一円に留まらず、遠く和歌山市や橋本市などからも血液疾患患者様のご紹介をいただいております。今後も当院への医療需要は加速していくものと思われれます。

一般に、血液がんの患者様は、抗がん剤を用いた化学療法により、一時的に抵抗力が弱ります。その際、感染などの合併症をできるだけ減らすため、無菌室での清潔な環境が必要となります。当院は、平成23年4月に無菌室を13床(個室5室と4人総室2室)に大幅に拡充し、近畿圏内では有数の病床数となりました。この度、この無菌室を中心に血液病センターを新設し、血液疾患の診療体制を一層強化しました。